

わか草



第十三回 平成二十二年一月一日
発行 東京都立東部療育センター
広報委員会
東京都江東区新砂三三二二十五



「体験を発展への礎に」 院長 有馬正高

平成二十一年元旦に発行のわか草第九号に「新年への希望」と題して開設後三年間の活動を省み、利用者の方達の要望と期待に応える発展の年としようと書きました。安全で快適な年であるように願っていましたが、後半は新型インフルエンザ対策に忙殺された年となりました。

三月にメキシコで始まった世界的な流行が国際空港の厳重な検疫をくぐり抜けて日本にも入り、五月には関西、東京へと拡がりました。国民には免疫がほとんどないので、発病者は日本全域で一千万人、米国などの実情を参考にすれば死者は一万人以上といわれました。特に、呼吸障害をもつ人達や脳症を起こしやすい子供達は重症になる率が高いといわれ、全国の重症心身障害施設では不安が高まりました。

新しいワクチンが期待されましたが製造には時を要し、十一月から断続的に供給が始まって病棟、通所の利用者や関係部署の職員への接種がほぼ完了したのは十二月半ばとなりました。

歳末になって漸く流行が峠を越え発病者が減り始めたと報道されますが、江東区では新しい感染による学級閉鎖は続き、そのまま冬休みに入った幼稚園や小中学校が後を絶ちません。幸に、

東部療育センターや各地の重症児施設では、外泊から帰って発病した利用者や、家庭内または外来で感染発病した職員が散発しましたが、そこから病棟内での拡大流行はなくてすみました。しかし、毎年流行してきた季節性インフルエンザは、例年一月から二月に山を迎えていたので三月末までは気を許さずに日本各地の情報に注意せねばなりません。

今回の流行を体験して、重症児施設も世界から隔離された居住区ではあり得ないと思いました。世界保健機関や米国のCDC(疾病予防管理センター)などを含む各国の情報が日本の感染症情報センターなどを通して政府、都道府県、医師会、医療機関に次々に入り、それらからの指示が目まぐるしく伝わってきたことでした。

私達が過去四年間の経験と学習を基盤にし、築いてきた防疫体制が有効に働いたと評価できますが、特にウイルスの毒性が米国などで報じられた予想よりも緩和であることが幸しだと感じています。



クリスマス会 特集

三階西病棟

十二月十六日、三階ひなげし病棟でのクリスマス会が開催されました。今年度は新型コロナウイルスの流行が心配されましたが、当日は利用者様全員が参加することができました。

今年度は、昨年好評であった利用者様・職員による出し物も更に充実し、内容もさることながら衣装などもとても華やかで、参加された保護者の方からも大変喜ばれました。会を迎えるにあたり、利用者様・職員と一緒に準備をしてきたこともあり、当日はその成果が充分に見られたと思います。

第二部では、ケーキの美味しさに、利用者の皆様の笑顔も更にたくさん見られました。

来年もより一層皆様に楽しんでいただけるように、企画・検討を重ねていきたいと思っています。



劇「水戸黄門」

二階南病棟

三階南ちこゆり病棟では、十二月十七日（木）にクリスマス会を行いました。クリスマス会に向けて、普段の活動の中でクリスマスソングをたくさん歌い、本番を楽しみに待っていました。クリスマス会では、みんなの心を一つにしてのハンドベルの演奏、クリスマスイルミネーションを楽しみながらのキャンドルサーブス、職員のペーパーサート、そして、たくさん歌ってきたクリスマスソングをみんなで楽しみました。もちろんサンタさんからのクリスマスプレゼントも、もらいました。サンタさんの登場に皆さん大盛り上がり！

プレゼントは手作りのクリスマスブーツと匂い袋。皆さんとても喜んでいらっしゃいました。そして、もう一つのお楽しみはクリスマスケーキ！綺麗に盛り付けられたケーキは、病棟の皆さんも、ご家族の皆さんも大満足のようでした。

来年のクリスマス会も今年以上に皆さんの笑顔があふれますように…。



紙人形劇
「森のクリスマス」

二階西病棟

二階西病棟の今年度のクリスマス会には内容盛り沢山。来年度卒業・入学の節目を迎えられる利用者様を主役にも、かもめ分教室の担任の先生と一緒に熱演していただいた劇「三びきのトナカイとがらがらどん」。その後は「スノーマン」とともにクリスマスの大空をみんなで散歩しました。そして、利用者様と保護者の方々、病棟スタッフが紐に吊るした鈴やマラカスなどの楽器にタッチ！クリスマスソングの演奏に笑いとも入ります。

最後はコスモスダンスによる華麗なるダンス！ピンクレディーメドレー！ミュージックフェアのBGMとともに、司会者が登場。UFOやペッパー警部、渚のシンドバット、SOSなど、おなじみの名曲をダンスバトルに披露！病棟スタッフ全員が練習を重ねた甲斐もあり、会場中が笑いの渦に！まさに、熱気に包まれ、笑顔と元気がいっぱい！二階西病棟らしいクリスマス会となりました。



ピンクレディーメドレー

二階南病棟

十二月十七日、二階南病棟のクリスマス会は素敵な衣装に身を包んだ有馬院長先生の挨拶と同時に始まりました。この日に向けて徐々にクリスマス会の雰囲気になっていく病棟。みんなこの日を楽しみにしていました。

有馬院長先生の挨拶の後は職員・ご家族・利用者様によるトーンチャイムを行いました。

トーンチャイムの美しい音色は病棟に響き渡りとても素敵な演奏となりました。その後は職員による出し物。二階南病棟にアイドルがやってきて病棟に華やかさ？とさらなるにぎわいをプラスしてくれました。

その他にもプレゼントタイムや栄養科による素敵なケーキタイムなど嬉しく、楽しく、そしておいしい時間を過ごすことができました。

二階南病棟一体となったクリスマス会はあるという間に過ぎていきました。が素敵な思い出の一ページとしてしっかりと心に刻まれたことでしょうか。



アイドルによるダンス

通所

十二月十七日に「通所クリスマス会」が午前・午後と行われました。有馬院長先生の挨拶から始まり、乾杯、そして栄養科よりケーキが届き、職員より「生演奏のプレゼント」！ご家族よりフラダンスを「南の島のハメハメ大王」に乗せて披露して頂きました！保護者会の合間をぬって練習し、とても合わせるのが大変だったとお聞きしましたが見ている利用者様も笑顔が多くとても盛り上がりました。

午後からの「点灯式」はスノーズレイン形式で行いました。活動で製作したランプシェード（和紙を貼り合わせた）が色とりどりに光り、素敵な空間となりました。メインイベントの「ファッションショー」ではレッドカーペットの上を職員がエスコートして全員に登場してもらいました。女性はドレス・男性はスーツ姿でスクリーンに登場！それぞれに表情豊かな様子をご家族の皆様へ見て頂き、たくさん喜びの声が届かれました。嬉しくそして思い出に残る会となりました。



保護者による
フラダンス

お楽しみ会

十月七日（水）「お楽しみ会」を行いました。例年「オータムフェスティバル」として行ってきましたが、今年度はインフルエンザ対応のため、各病棟・通所単位での開催となり名称も「お楽しみ会」となりました。内容は「アトラクション」「各病棟・通所企画」「軽食」そして「作品展」でした。アトラクションは、かもめ分教室教員による荒馬踊り、職員有志によるバンド演奏、外部ボランティアによる歌でした。この三グループが各病棟・通所を披露して回りました。各病棟・通所企画では、歌やゲーム、寸劇、フラダンスなどで大いに盛り上がりました。例年に比べ、規模は小さくなってしまいましたが、「今回の行事も楽しかった」という声も聞かれました。当日は、台風が接近し大荒れの天気でしたが、多くのご家族が参加して下さい、利用者の皆様にとり楽しい時間を持つことができました。ありがとうございました。



荒馬踊り

委員会紹介

委員会紹介も今号で最後となります。年度関係の委員会紹介です。

【診療材料委員会】

当センターで使用する診療材料は、ガーゼ・カテーテル・針等約六八〇種類です。診療材料委員会では、新しい材料の購入やあまり使われなくなった材料の購入の中止、また多様なサイズの材料の統合についてなど見直しを行い、効率的で使いやすい診療材料について検討しています。今年度は、すでに開院以来の使用材料で使われなくなったガーゼ・消毒綿など五種類の購入中止を決めました。

【備品選定委員会】

医療機器など高価な物品をセンターの財産として管理しています。金額五万円以上の物品を備品として扱い、そのうち一〇〇万円以上の物品を重要備品として管理しています。毎年、予算の範囲内で必要とする物品を調査し、必要とする物品の選定を行い、院長に報告する委員会です。開院以来五年目になり当初の備品も補修が多くなりました。今後、買い換える備品も出てきそうです。

ボランティア紹介

加藤 丈資さん



初めまして加藤丈資と申します。この東部療育センターでボランティア（僕自身はこの呼び名に抵抗を感じるのですが）をしているものです。

ここに來たきっかけは「リットルの涙」という小説でした。この本を読んで、何かしら自分にもできることがあるのではないかと考えたのです。そうしてSUNAMOのオープンを間近に控えた二〇〇八年十月、僕は南砂町にやってきました。最初のうちは毎回緊張していました。彼らとどのようなスタンスで接すればいいのかわからず、苦勞していた覚えがあります。

少しずつではありましたが、なじむことができたのは看護師さん達が気を使って下さったおかげです。皆さんの明るく元氣な笑顔が患者さん達にとって大きなパワーになっているのだと思います。

結局のところ、自分がここでできることは何もありません。でも僕は彼らの友達だと思っているので、そして会っていろいろなお話しをしたいと思うので、今後も続けていきたいと思っています。

東部あれこれ

今年の十月から十二月にかけて当院で行われた行事等について紹介します。

【十月】

例年実施されていたオータムフェスティバルですが、今年は新型インフルエンザ予防のため、名称を「お楽しみ会」に変更し七日に部署ごとに行いました。利用者様には希望によりキーキノンアルコールビールなどが用意され、アトラクションではボランティアや職員の方々が演奏を行うなど、ご家族の方にも好評でした。

【十一月】

十五日（入所）、十六日（通所）に保護者懇談会が開催され、センターからの業務に関する報告と、ご家族・第三者委員・職員による意見交換が行われました。意見交換では新型インフルエンザに関する質問、病棟や通所でのサービスについてのご意見・要望が出されました。

【十二月】

九日、十日、十一日の三日間、再就職を希望する看護師に対する復職研修を実施しました。研修は、出産、育児、家族の転勤等で一時期職場を離れ、近い将来復職を考えている看護師または

准看護師免許を有する方を対象に、最近の看護・介護・福祉等の動向を講義と演習を通して習得していただくものです。看護師不足の折、当センターに就職される方がいることを願っています。

東京福祉保健医療学会報告

十二月十八日（金）東京福祉保健医療学会が行われました。当センターからは三件の①重症心身障害児（者）における赤血球膜内脂肪酸組成に関する研究（口頭・荒井先生）②重症心身障害児（者）の経口摂取方法の検討（ポスター・三南、錦織・佐藤看護師）③安全なバス送迎への取り組み（誌上・小川・鶴田児童指導員）の発表がありました。ポスターでは、「顔の保持の仕方はどうしますか?」、「利用者さんのADLはどのくらいですか?」などの質問がありました。

この日は口頭発表を聞いたり、他のポスターを見る事もでき、院外での発表に積極的に参加することの大切さを実感しました。

荒井先生

佐藤さん
錦織さん



インフルエンザ対策

新型インフルエンザの報道が始まってから久しくなります。昨年十一月までと比し、発症数は下降傾向になってきました。しかし、皆様の身近にも罹患した方がいらっしやるのではないのでしょうか。基本情報をまとめてみましたので、参考にしてください。

症状は、通常の季節性インフルエンザと同様で、突然の発熱、倦怠感、咳、鼻水ですが、下痢などの腹部症状を示す方もいるようです。重症化は、糖尿病や喘息などの基礎疾患を持つ方や高齢者に多いようです。数日で症状は改善しますが、重症化のサインとして、①痙攣や落ち着きが無いなどの行動異常②三日以上の発熱③呼吸が早く息苦しそう④下痢や嘔吐が続く等の症状が挙げられます。以上の項目があれば再診が必要です。

予防対策の基本として、①人混みに行かない②外出時はこまめにうがいや手洗いをすることが大切です。感染者からの咳によってウィルスが巻き散らかされ、そのウィルスを触った手で目や鼻をこする事で感染する可能性があります。のどや鼻の粘膜に付着したウィルスが増殖し体内に侵入するのに三〇分程度はかかると言われています。人混みではマスクの着用や、うが

いをし、感染の機会を減らしましょう。先日、十分なワクチン量が確保され、対象者が優先接種対象者から一般に拡大すると報告がありました。全ての人が、免疫を持たないため、ワクチン接種によってのみ発症予防や、発症時の症状軽減が期待されます。早期の接種をお勧めします。

当センターでは、ようやく利用者様のワクチン接種が済み、直接ケアに対応する職員の接種も一段落しました。また、外来利用者様にも、ワクチン接種を開始しています。感染対策が功を奏し、幸い、発症者があっても、拡大に繋がらずに過ごしています。さらに、詳しい情報を得るために、厚生労働省のサイトをお勧めします。正しい知識を持って賢くこの季節を過ごしたいですね。

編集後記

わか草第十三号をお届けします。皆様に於いては、良いお年をお迎えのことと存じます。

センターは五年目を向かえ、新たなスタートを切りました。昨年のクリスマス会でも、前回以上に盛り上げようと、趣向を凝らした「芸」が披露されました。写真から「意気込み」が感じられれば幸いです。

最後になりましたが、皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。